

2021 年 6 月 28 日

通貨ニュース

フィリピン: 6 月金融政策会合～政策金利は過去最低水準で据え置き

フィリピン中央銀行(BSP)は 24 日に開催した金融政策会合で、政策金利の翌日物リバースレポレートを超過去最低の 2.00%に据え置いた(図表 1)。政策金利は 5 会合連続で据え置きとなった。同時に上限金利の翌日物貸出ファシリティ(OLF)レートおよび下限金利の翌日物預金ファシリティ(ODF)レートもそれぞれ 2.50%と 1.50%とした。なお、ブルームバーグの事前予想では 20 人のエコノミスト全員が現状維持を予想していた。

今回の政策決定についてジョグノ BSP 総裁は会見で、新型コロナウイルスの感染拡大が続く中、ロックダウン措置の長期化に伴う景気の減速を指摘した。経済活動はここ数週間で改善しているものの、景気回復の勢いは相変わらず不確実であることにも言及した。前回 5 月会合に続き、内需を継続して支える必要性を述べ、金融政策の現状維持が妥当であると総括した。

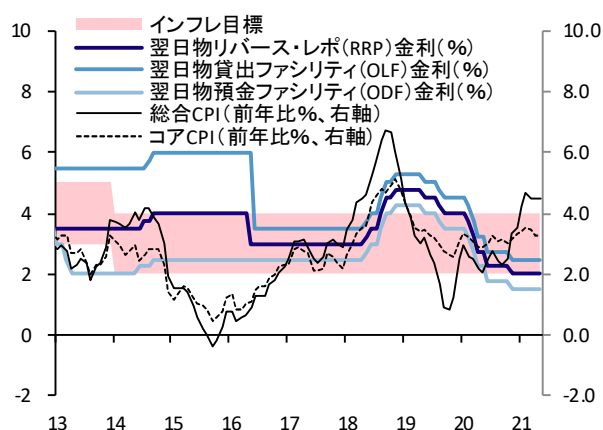
物価動向に関しては、従前の前年比+3.9%の見通しから+0.1%ポイント引き上げて 4.0%としたが、BSP が掲げる年間目標の+2.0%～+4.0%に収まるとしている。年初以降、原油をはじめとするコモディティ価格の上昇や国内のサプライチェーン供給網の混乱がインフレ上昇圧力となり目標の上限となる 4%を上回る推移となったものの、BSP は新型コロナウイルスの感染拡大が長期化した影響で需要が減退すると予想し、目標レンジ内に収束するとの見方を示した。こうした状況も緩和的な金融政策継続の一因となったものと見られる。

かかる中、PHP は対ドルで 6 月下旬に一時年初来安値を更新する展開となっている(図表 2)。要因としては、米国における経済成長見通しの引き上げと、利上げ開始時期の早期化の観測が広がってドル高に転じた点や、フィリピンにおける新型コロナウイルスの感染再拡大の影響が大きいものと考えられる(図表 3)。今後にかけてもワクチンの無効化など、大きなリスク心理悪化の芽が生まれない限り、米国における金融政策の正常化への議論は順調に進むことが考えられ、こうした動きを受けて PHP が安値方向に動く可能性を考慮したい。

対円に関しては、図表 2 に見られる通り、堅調な推移が続いている。日本でのワクチン接種が欧米各国対比で遅れてきたことや、経済回復のペースも緩慢であったことが材料視されて、円が軟調に推移していることが影響してきた。ところが、日本においても 6 月にかけて接種のペースが加速しており、フィリピンとの差は広がる傾向にある(図表 4)。引き続きワクチン接種の遅れはフィリピン国内の景気停滞や BSP や政府のコロナ対応を長期化させる要因となる。かかる動向を引き続き注視しつつ、PHP は対円でも弱含む展開も想定しておきたい。

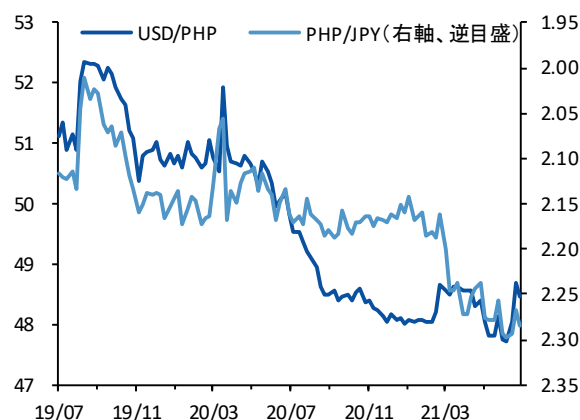
市場営業部
マーケット・エコノミスト
堀 堯大
03-3242-7065
takahiro.hori@mizuho-bk.co.jp

図表 1: 消費者物価とインフレ目標(%)



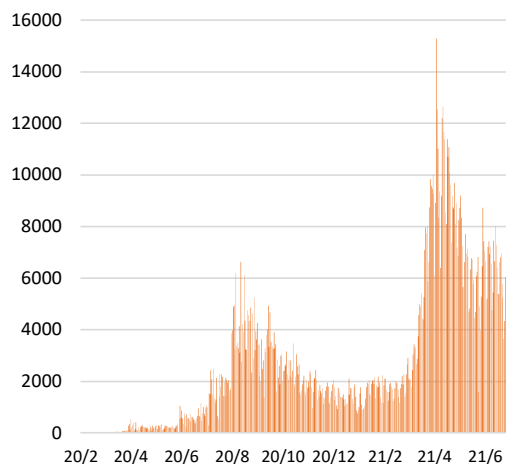
出所: フィリピン中央銀行、フィリピン国家統計局、ブルームバーグ、みずほ銀行

図表 2: PHP 為替動向(対ドル、対円)



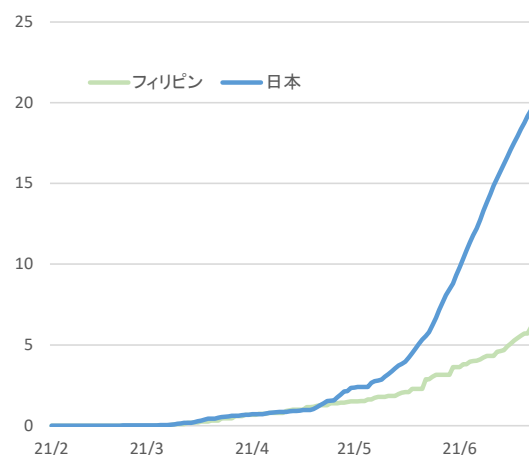
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

図表 3: 新型コロナウイルス新規感染者数(人)



出所: Macrobond、みずほ銀行

図表 4: 100 人当たりのワクチン接種人数(人)



出所: Our World in Data よりみずほ銀行作成

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。